

平成26年度

学 校 の 概 況

平成27年5月17日 奨学後援会総会資料

広島商船高等専門学校

目 次

学校の現況（校長 村上 定瞭）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
学生教育（教務主事 舟木 弥夫）・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1. はじめに	
2. 高専教育の充実に向けた授業改善の取組み	
学生支援（学生主事 上杉 鉛一）・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1. 就学支援	
2. 学生会関係活動支援	
3. 交通安全指導	
4. その他の規範意識を高める支援	
学寮生活（寮務主事 成清 勝博）・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1. 寮生数について	
2. 成績不振者に対する学習支援について	
3. 寮生の現状	
広報活動（広報主事 澤田 大吾）・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1. 平成26年度の主な取り組み	
2. 入学生の状況，情報の共有	
3. 今年度の取り組み	
進路指導—商船学科—（商船学科就職担当 河村 義顕，瀧口 三千弘）・・・・・・	6
1. 進路の概況	
2. 近年の求人・求職傾向	
3. 進路指導	
進路指導—電子制御工学科—（電子制御工学科就職担当 吉田 哲哉）・・・・・・	7
1. 進路の概況	
2. 進路状況	
進路指導—流通情報工学科—（流通情報工学科進路指導担当 岡村 修司）・・・・	8
1. 進路指導（学科の取り組み）	
2. 進路の概況	

学校の現況

校長 村上 定瞭

保護者の皆様には、如何お過ごしでしょうか。平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

全国高専体育大会では、卓球部が男子団体で準優勝、男子シングルスで準優勝、女子シングルスで優勝を獲得しました。全国商船高専漕艇大会では、カッター部がA及びBの両部門で優勝しました。久々の快挙に、心より喜んでいきます。

今日、日本の教育のあり方が問われています。知識・技術の確実な修得に重点を置いた教育から、社会課題の解決能力の育成に重点を置く教育への質的変換です。

元来、高専教育では、講義による知識の理解と実験・実習による技術の修得により、実践的技術者の育成を特徴とし、卒業生は社会の各分野で高く評価されてきました。しかし、今日の社会課題には様々な因子が複雑に絡み、また、相反する因子が混在し、その解決策を見いだすことは容易ではありません。また、知識・経験だけでなく、全く新たな視点・発想が必要となります。このような課題解決能力を育成するため、高専各校ではアクティブラーニングの導入を推進しています。

アクティブラーニングとは、授業等で学生が受動的に知識・技術を修得することではなく、「学生が能動的に学ぶ」ことです。アクティブラーニングには、「PBL（課題解決を通して学ぶ）」「e-ラーニング（ICTを活用して学ぶ）」「ピアラーニング（学生が教え合いながら学ぶ）」「サービスマーケティング（社会活動を通して学ぶ）」など様々な形態の学修（授業）があります。

本校での具体的な事例として、①地域（離島）課題を組み入れた情報系科目や各専門学科での実験・実習、②障がい者・高齢者との交流活動、海岸・景勝地の清掃活動、地域伝統行事への参加などの社会貢献活動があります。

これらのアクティブラーニングの具体的な成果として、情報系科目で学生が取り組んだ「認知症予防システム」が介護施設等で導入されています。また、本年度の海技士国家筆記試験では、1級合格者6名、2級合格者31名となり、今後、上級合格者のさらなる増加が期待できます。これは、早朝・放課後での特別講座の開催など、学生・教員による地道な取組の成果であり、高く評価できるものです。昨年来より一般科目・専門科目を問わず、英語による授業を推進しています。現在のところ、具体的な成果が認められませんが、取組継続により必ず英語力の向上が期待できます。以上述べましたように、本校では日本の未来社会－高齢化・グローバル化－に求められる課題解決能力を有する人材育成に努めています。保護者各位には本校への深いご理解を頂きますとともに、本校に在籍するご息やご息女が立派に成長できますようご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

学生教育

教務主事 舟木 弥夫

1. はじめに

高専教育は5年間または5年半の一貫教育のなかで、実験・実習・実技を中心とした特色ある教育課程を通し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた人材を育成することが目標です。

そのため、教育カリキュラムの見直し、ICTの活用、アクティブ・ラーニングの強化、教育のグローバル化、基礎科目・リベラルアーツ科目の充実、高専間連携を重点項目として教育改善に取り組んでいます。

2. 高専教育の充実に向けた授業改善の取組み

(1) 語学力の向上（教員を含む）

「英語を用いた授業を全教員（非常勤講師を除く）全科目1回以上行う」「定期試験に英語による問題を最低1問は出題する」という取組みを行いました。ほぼ全教員が実施しました。

(2) 地域連携を通しての教育

地域課題を卒業研究に取り上げ（17テーマ）、地域の再生・活性化への技術開発を行いました。また、来年度より「地域貢献」を単位化します。

(3) 混合学級によるクラス編成

平成22年度の1年生より学科単位ではなく学科を混合した学級編成を導入しました。

来年度も、1・2年生が混合学級で、3年生以上は専門学科のクラス編成となります。

(4) 基礎実習の導入

他学科の実習を体験することにより相互の理解を深めるとともに、幅広い知識と経験を得ることを目的として、今年度より1年生に対し共通の実習を行いました。

(5) 自主的な学習

語学、到達度試験、就職等の対策が自主的に行えるようe-ラーニングなどの自主学習教材と学習環境の整備を行っています。メディアセンター、LL教室、学科演習室、図書館、学寮自習室に設置した有線LAN端末に加えて、学生各個人が所有するパソコン・タブレット・スマートフォン等を無線LANを通して活用し、自学自習ができるICT環境を整備しました。

(6) 習熟度クラス編成

1年から3年までの英語について各学年を習熟度別に3段階に分けて、下位のグループはさらに2分割して総計4クラス編成で授業を行っています。

(7) 留年・退学を出さないための対策

授業改善（公開授業・授業評価）、遅刻の多い学生への対応、下宿生への対応、学生支援室との連携などを実施しました。今年度は教員研修として、7月以降月1回、スクールカウンセラーに出席していただき、学生対応の検討会を実施しました。

(8) 教育の質の保証

機構本部WGが策定したモデルコアカリキュラムに沿ってH27年度にカリキュラム・シラバスの最終策定を行い、H28年度よりアクティブ・ラーニング強化に対応する新カリキュラムを実施します。

学生支援

学生主事 上杉 鉛一

1. 就学支援

本校では、入学金や授業料の免除、各種奨学金の案内や手続き等について、各教室や1階エレベータ横の掲示板に張り出すとともに電子掲示板で学生たちに案内しています。興味のある方は、学生を通じ、学生係で必要な書類等を受け取り、記入の上、期限内に提出するようにお願いいたします。（学生係は0846-67-2023です）

なお、1年生から3年生までの学生に関しては就学支援金制度により授業料の支援を行っており、4年生以上の学生には授業料免除制度により2014年度の前期分授業料は全額免除30名、半額免除6名、後期分授業料は全額免除32名、半額免除5名の就学支援を行っています。

2. 学生会関係活動支援

学生たちの自治組織として、学生会があります。会長をはじめとする役員を中心に学校周りの掃除などのボランティアや商船祭などの学校行事、課外活動の支援などに取り組んでいます。学生会の活動やクラスマッチなど一週間の行事、商船祭の内容などを学生会新聞としてまとめ、各クラスや校内の掲示板に隔週水曜日に掲示するようにしています。

学生会の最大の行事である商船祭には、一般の来場者も楽しめる教室でのイベントや展示を増やし、2014年度は空き教室がなくなりました。また2014年度より一般の方もバザーに参加していただき、盛況となりました。

学生たちの心身の健全な発達のために14の体育系のクラブ、同好会、13の文化系のクラブ、同好会が放課後を中心に活動しています。各クラブからの予算要求書を学生会がまとめ、クラブ予算を作成しています。これまでは昨年度の予算と各クラブからの要求書だけで予算をたてていましたが、2015年度より、部員数や大会での実績などを加味して予算配分する予定です。

3. 交通安全指導

登校の際には、学生たちの安全を守るため、また地域からの信頼を得るために、教員が通学路に立ち交通安全指導をしています。特に自転車の並列運転や二人乗り、傘さし運転をしないこと、一旦停止などの交通規則を守り、事故に遭わないように指導しています。

昨年度は警察の指導により、原付通学生への運転講習会を2回行いましたが、6月に通学途中で転倒し、入院するという事故が発生しました。来年度も警察と連携しながら、交通安全に取り組んでいきます。

4. その他の規範意識を高める支援

本校の教育目標のAは「豊かな心、生きる力、規範意識の育成」です。具体的には「安心・安全」「思いやり」「ルールを守る」ことであると指導しています。自分を大切に、他人を大切にすることを指導しています。また「人は見た目が8割」とも言います。服装や身なりを見て、その人の中身を考える人は多いものです。本校の学生が一人でもシャツを出したり、ネクタイを緩めただらしない服装をしたり、髪を染めたり、ピアスをするなどの格好をすると、「広島商船の学生は」という風に、全学生を否定するような声を聞くことにもつながります。多くの学生はこのような服装や格好はしていませんが、一部の学生のために全員が悪く見られることがあるのが実情です。一人一人が広島商船の代表であることを自覚して行動するように、ご家庭でもご指導をお願いします。

2014年度は停学以上の指導を受けた学生が前年度に比べてほぼ半減しました。（2013年度39名、2014年度21名）これも教員全員が学生指導に尽力した結果だと思われます。

学寮生活

寮務主事 成清 勝博

1. 寮生数について

昨年度末には、新入生の部屋を確保するために、5年生に進級する寮生の内、23人を再入寮不許可（生活態度不良6人、通学可能2人、再入寮取り下げ7人、くじ引きによる条件付き不許可8人）にしました。条件付き不許可の8人の内、5人は通学または下宿をし、3人が再入寮しました。今年度は、10月末の時点で再入寮不許可となる寮生が、31人になることが予想されました。そこで、居室不足解消のため、A棟(すべて1人部屋)の20部屋に2段ベッドを入れて2人部屋に変更しました。トイレ、補食談話室、浴室、食堂の利用状況を考えると、20人程度が増員の上限と考えました。その結果、年度末までの自主退寮者等もあり、20部屋中15部屋を2人で使用することになり、再入寮不許可を出さずに済みました。

2. 成績不振者に対する学習支援について

(1) 自習時間の状況

日課表では20時～22時は自習時間になっています。しかし、多くの寮生が入浴するために長めの17時半～22時が入浴時間になって、自習時間と重なってしまっています。そのため、一部の寮生は自習をする習慣が身につかず成績不振を招いているのではないかと考えました。

(2) 成績不振者の図書室での自習

前期末試験で不可が13単位以上の1年生9人、2年生3人(すべて男子)を対象に週4日(月～木)、1時間半(8時～9時半)宿直教員の監督の下、図書室で自習させることにしました。後期中間試験後は、同じ基準による対象者と学級担任の指導で3人の自主参加者を加えて、1年生12人、2年生3人で実施しました。他の寮生も自主的に数人参加していました。

(3) 自習参加者の成績の推移

後期中間試験では、参加12人中、成績が向上した学生は10人でした。なかでも、1年生3人、2年生1人の成績が基準を満たしたので、自習対象から外れました。参加延べ18人中、残念ながら2人が留年してしまいました。

3. 寮生の現状

(1) 改善された事項

窃盗、暴力、飲酒、異性寮への立入・引入に関しての違反学生はいませんでした。

喫煙での指導は1人、寮内における散髪が1件、夜の点呼後外出での指導が1件(5人)ありました。他に、部屋の使い方違反、無届外泊・点呼不参・外泊カード忘れ(女子のみ)、公共物破損行為、病気以外の授業への遅刻・欠席、禁止物品の持ち込み及び使用、廊下への物出し、寮費・食費等の滞納など、無くなってはいませんが改善されています。

(2) 寮生指導

ここ数年低学年の問題行動が目立つようになってきました。今後も、基本的な生活習慣を含めて、今まで以上にきめ細かい指導が必要になってくるものと思います。

(3) 今後の課題

次の3点については、今後十分検討していきます。

- ①公共マナー教育
- ②女子寮の整備について
- ③入寮希望者が定員を超えた場合の対策

広報活動

広報主事 澤田 大吾

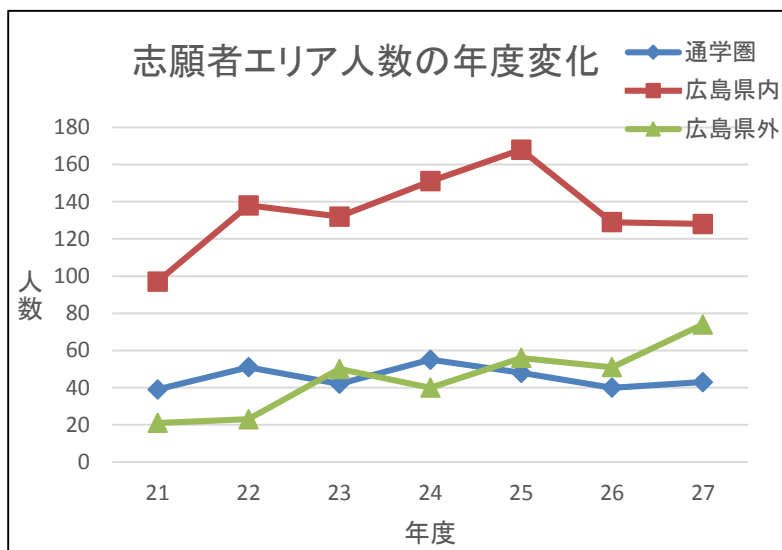
1. 平成 26 年度の主な取り組み

1 年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

- ・ 4 月 大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力
- ・ 6 月 進路説明会（福山で開催、約 20 校参加）を開催、米子高専と 3 高専連携の広報活動を福山市で実施、江田島サイエンススクールに参加
- ・ 7 月 5 商船高専合同説明会（広島、横浜、神戸）に参加
広島丸の体験航海（4 回）を実施
- ・ 8 月 公開講座、全教員による中学校訪問。オープンスクール（第 1 回目）が台風により中止のため、全国の参加予定中学校への中学校訪問を実施
- ・ 9 月 県内中学校からの要望による出前授業や進路説明会、呉エコフェスタにも参加
- ・ 10 月 オープンスクール（2 日間）、6 高専による進学説明会（東京）を実施
- ・ 11 月 帆船フェスタ 2014 広島に参加
- ・ 12 月以降 オープンスクール等行事に参加した中学生への情報発信

2. 入学生の状況、情報の共有

今年の志願者は 246 名になり、昨年から 26 名の増加となりました。しかし、特別推薦者 25 名を始め、一般入試においても優秀な生徒が確保されるのではないかと予想されます。8 月のオープンスクールは台風接近のため中止しましたが、10 月は 2 日間実施しました。1 回の実施としては最高数の来校者がありましたが、志願者激増には至りませんでした。しかし、志願者のレベルがかなり上昇したことはつなかりました。平成 27 年度は夏のオープンスクールは 2 日間、10 月は 1 日間とする予定です。また今年度、関東地区からかなり優秀な中学生を確保できており、引き続いて行う予定です。



しかし、本当の広報とは「本校の学生がいかに成長するのか」であると考えられます。学校全体が学生を支援できる体制が必要です。また、今年の広報活動では学生主体の広報活動を全面に打ち出して行く予定です。2 度のオープンスクールでは本校の学生を生徒や保護者に見ていただき、それで志願者増になるような学校にしていくことを考えています。

3. 今年度の取り組み

- (1) 中学校（中学校教諭）との連携強化
- (2) 教育コーディネータ（特命教授）の適正配置
- (3) 広島県東部地区・関東地区への広報活動強化

進路指導—商船学科—

商船学科 就職担当 河村 義顕、瀧口 三千弘

1. 進路の概況

図1は商船学科に在籍する学生の近年における就職傾向を示しています。航海コースでは平均して6割が海上職、1割が運輸関係の陸上職、残り3割が進学となっており、機関コースでは6割が海上職、2割が製造業等の陸上職、残り2割が進学となっております。

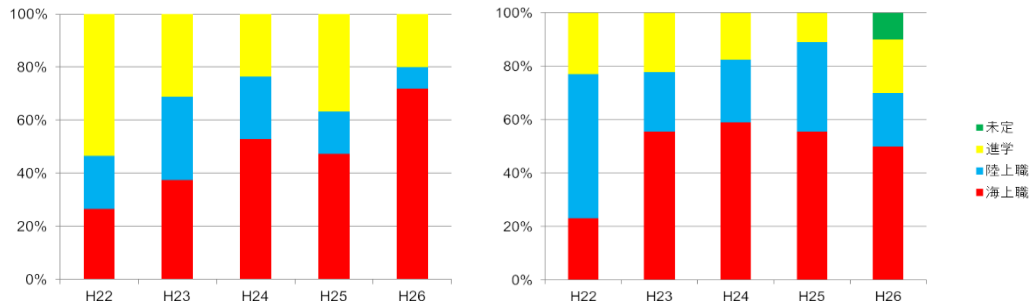


図1 近年の就職傾向(左:航海コース・右:機関コース)

2. 近年の求人・求職傾向

近年の求人の傾向としましては、外航船社では新3級制度による一般大学からの採用、内航船社においても2級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため、よりレベルの高い資質を求められています。また、就職に際しては業務内容を遂行していく上での基礎基本の知識を有していることは当然のことながら、社会人としての責任感・協調性・社会性などのコミュニケーション能力が強く求められる傾向にあります。

学生の求職志向については、外航を目指す学生は各年度で一定数おりますが、全体的には数ヶ月にわたる乗船を求められる船社より、数週間オーダーの短期航海を好む傾向にあります。そのため、全体的に外航よりも内航船社に興味を示す学生が増加している傾向にあります。

これらの求人・求職状況に対応するため、商船学科ではカリキュラムの再編や補習・個別指導・国家試験受験の支援などを行い、学生の資質向上に努めております。

図2に卒業時の上級海技免状の取得者状況を示します。

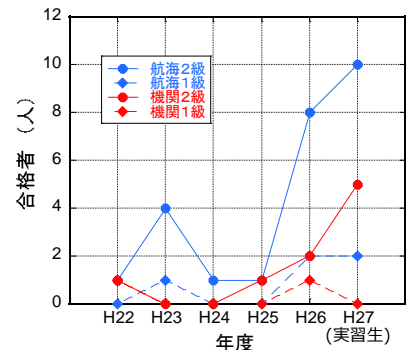


図2 海技免状の卒業時取得状況

3. 進路指導

(1) 低学年に対して 学科長や就職担当がホームルームの時間を利用して就職や進学を含めた進路についての指導(主として動機付け)を行っています。不定期ではありますが、造船所見学や本校練習船の寄港地での会社見学・港湾設備見学なども行い、船及び海事関連の仕事に対する理解を深める取組みも行っています。とりわけ、3年生に対しては上級海技免状の取得に向けた取り組みをできるだけ早く始めるように促しています。

(2) 高学年に対して 担任・就職担当を中心に、進路希望調査・個人面談を行いながら進路の決定を行っています。商船学科の進路指導は、本人の希望を最優先するとともに、本人の実力および適性を踏まえて行っています。進路情報の提供として、会社説明会・大学説明会などを学内でも行っています。学生には、会社訪問やインターンシップへの参加も機会ある毎に促しています。また、履歴書の書き方・面接試験時の対応などについても、個別に指導を行っています。

進路指導－電子制御工学科－

電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉

1. 進路の概況

日本の経済回復を目的としたアベノミクスによるデフレ脱却からの経済金融政策の効果が、企業の採用人数の顕著な増加につながり、今年度の求人状況は、平成20年度のリーマンショック以前の状況に改善し、求人数は467人、求人企業数は403社となりました。これは平成25年度の求人数417人、企業数374社に比較しても求人数で10%ほどの改善がみられ、非常に恵まれた状況でした。今年度も学生達の努力の結果、卒業生49名のうち8名が進学し、41名が就職します。就職先の職種としては、エンジニアとして機械、電気、情報、制御等の専門的な技術の仕事に携わります。

2. 進路状況

(1) 就職

卒業生の就職先の業種は46%が製造業で、その職種は工場の生産ラインの設計や保守・管理などとなりました。また、約41%がサービス業で、エレベータやエスカレータ、OA機器などのメンテナンスを行います。運輸・通信分野も約7%で、通信部門では携帯電話やネットワーク関連のソフト開発などの仕事をします。電力会社へも就職します。今年度は、24%の卒業生が県内の企業に就職し、昨年度までの過去5年間の平均値の14%に比べ、大幅に増加しました。表に今年度の卒業生の進路先を示しています。

(2) 進学

大学等への進学者の割合は16%で、進学先としては、豊橋・長岡の両技術科学大学と宇都宮大学です。本校の専攻科へ進学する学生もいます。

平成26年度卒業生の進路先(電子制御工学科)
(H27.3.6現在)

	内定進路先	人数	内定進路先	人数
就職先	CTCシステムマネジメント	1	荻野工業	1
	JFEスチール西日本製鉄所	2	古川製作所	1
	KDDIエンジニアリング	1	国際ケーブル・シップ	1
	LIXIL	1	三菱電機姫路製作所	1
	NTTコムソリューション&エンジニアリング	1	出光興産	1
	イオンリテール中四国カンパニー	1	神戸製鋼所高砂製作所	1
	エクス	1	神鋼テクノ	1
	セトウチ	1	前川製作所	1
	ダイキンHVACソリューション中四国	1	前田道路	1
	タイム	1	中国電力	2
	タマディック	1	東芝エレベータ	2
	テバ製薬	1	東芝メディカルシステムズ	1
	テラテック	1	日信電子サービス	1
	ヒロタニ	1	日本オーチス・エレベータ	2
	ヒロテック	1	日立ビルシステム	2
	フジテック	1	日立建機日本	1
	メタウォーター	1	富士電機	1
旭化成	1	理研ビタミン	1	
進学先	豊橋技術科学大学	2	広島商船高等専門学校専攻科	1
	長岡技術科学大学	3	未定	1
	宇都宮大学	1		

進路指導—流通情報工学科—

流通情報工学科 進路指導担当 岡村 修司

1. 進路指導（学科の取り組み）

従来の5年学級担任に加えて1名の進路指導担当者を置き、学科内で連携を取りながら指導にあたっています。採用試験で特筆すべき点は、基礎学力や一般常識もさることながら、個人の性格(ストレス耐性やバイタリティ)を従来にも増して注視している点です。そのため、企業と学生とのミスマッチが起こらないよう個別対応に相当の時間を割いています。

また、教授を中心として企業を担当し、通年にわたり企業訪問などの情報交換を行い、連絡を密にすることにより、信頼関係の構築に努めています。

特に、平成25年度の学生よりコース制（流通・ビジネスコース、情報コース）を導入しているため、それぞれのコースの専門性に応じた企業との連携に努めています。また、学生及び保護者の地元企業への就職ニーズが高いこと、学生を地元にかえす（地域貢献）ことの2つの観点から地元企業との交流も深めています。

学生の就職方法には、学校推薦（校長、教授推薦）、一般応募の2種類がありますが、地元志向及び業種の多様性から他学科に比べて一般応募を選択する学生も多くいます。このため、就業意識を高める試みとして、1) 低学年時より就職講義の導入、2) 4年生全員インターンシップに参加、3) OB・OG講演会、4) 職業適性試験・基礎能力試験の実施などの多岐に渡る就職支援プログラムを実施しています。

2. 進路の概況

平成26年度の卒業生は、48名（男子29名、女子19名）です。この内、就職希望者は37名、進学希望者は11名となっています。

就職先企業の業種の内訳については、図1に示すように、情報通信業が46%、運輸業が22%、製造業が11%、卸売業・小売業が5%となっています。その他の業種には、サービス業、医療・福祉などがあります。企業の所在地については、図2に示すように、東京が最も多くなっていますが、広島県が3割強に増えています。その他の地域には、愛知県、神奈川県、山口県などがあります。表1に主な就職先企業名を示します。

物流系企業の就職内定の時期は遅くなる傾向にあります。これは一般応募による選考の長期化と地元企業の求人募集の立ち上がりが遅い事などが要因と考えられます。しかしながら、最終的には就職希望者の内定率は100%に達しています。

進学者の内訳は、神戸大学海事科学部、東京海洋大学海洋工学部、豊橋技科大学情報系、広島商船専攻科産業システム専攻、専門学校です。

表1 就職先企業

情報系	物流系	その他
株式会社富士通エフサス	双葉運輸株式会社	イオンデライト株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社	山九株式会社	株式会社三和システム
日立物流ソフトウェア株式会社	トナミ運輸株式会社	技研電子株式会社
リコーテクノシステムズ株式会社	エフピコ物流株式会社	株式会社サコダ車両
株式会社富士通マーケティング	株式会社キューソー流通システム	社会福祉法人的場会
KCCS モバイルエンジニアリング株式会社		株式会社引越社関西
株式会社ハイマックス		株式会社マンモス
株式会社富士通エフサスシステムズ		株式会社広島マツダ
富士通関西中部ネットワーク株式会社		アオハタ株式会社

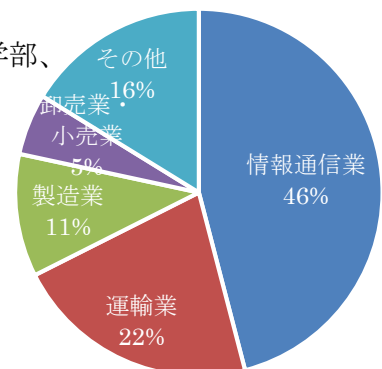


図1 就職先業種

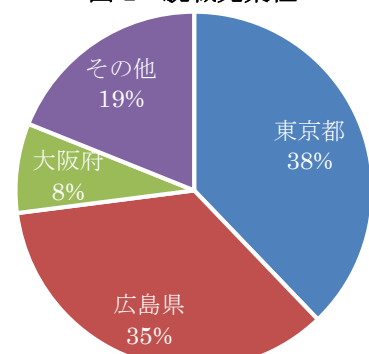


図2 就職先地域